

# 会 議 録

|     |  |
|-----|--|
| 日 時 | 令和5年 12月19日(火) 14:00~16:10   |
| 場 所 | 総合文化センター 視聴覚室  |
| 件 名 | 令和5年度 第5回社会教育委員会定例会  |
| 出席者 | 社会教育委員：小栗正敏、加藤一哉、松浦大哲、岩島留美子、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、<br>浅沼克郎、有賀雅美<br>事 務 局：藤井志保(社会教育課課長補佐)、川畑篤仁(同主査)  |
| 議 題 | <p><b>1 挨拶</b></p> <p><b>2 協議</b></p> <p><b>(1) 各グループでの分析</b></p> <p><b>【グループ1】</b></p> <p><b>⑥地域住民の意見や思いの協議会への反映のさせ方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように意見を聞く場を設けていくといいか。</li> <li>⇒学校報などで、CSの活動は地域に広報されている。その内容に興味をもって、読んでいる地域住民がどれだけいるのか。まずは、地域の皆さんにCSに興味関心をもってもらえるようにする必要がある。</li> <li>⇒窓口があるといいのだが、窓口を作るのは難しい。まちづくり協議会や自治会の区長会などで意見を聞き、その意見を学校運営協議会員が吸い上げて、会議の場に出していく。</li> <li>⇒コミスクが関係する行事について、参加した方々に意見や感想等を聞くことができる方法を工夫する。参加者全員に聞いていくということではなく、参加者が帰る時に、校長等が「今日の活動はどうでしたか。」などを積極的に聞いていく。</li> <li>⇒意見を聞くためには、その活動のねらいや主旨を確実に伝えていく必要もある。</li> <li>⇒活動しながら、感想や意見を聞いていくのもよい方法だと思う。</li> <li>⇒目的意識。子どもたちに目的やねらいをしっかり指導し話をすれば、子どもたちが意識して動く。子どもたちが動けば地域の方も動く。学校側が活動のねらいを子どもたちに指導したり、教職員で共有したりするだけでも、動きが変わってくる。</li> <li>⇒学校報にて、活動の様子(子供と地域の人が関わっている姿を具体的に)を紹介していく。活動の内容だけでなく、願いやねらいも一緒に掲載するとよい。</li> <li>⇒関わった人は、子供が喜んでいる姿を見て喜びを感じるのだと思う。ただ、関わっている人は、一緒に時間を共有するだけでも、うれしいと感じるのだと思う。地域の子どもと大人が色々な体験を一緒にできることに価値がある。</li> <li>⇒地域側から学校にお願いすることが増えてしまってもいけない。しかし、ここ2・3年、コミスクに対しては、学校も地域も初めてのことなので、負担感を感じる部分が出てきても仕方ない。そこで、互いに負担感をどう克服していくのか、一緒に考えていく関係を作り上げていく。</li> </ul> <p style="text-align: center;">コミスクについて、学校側も地域側もある程度の進め方が定着してれば、負担は減っていく。今は、その進め方を構築している最中なので、学校と地域と一緒に考え</p> |

ていくことが大切である。

- ⇒子どもたちと一緒に育てていくために活動しているのがコミスク。触れ合いを作っていく活動は、子どものためでもあり、地域の方のためでもある活動である。
- ⇒地域の人の活かし方。学校ではあくまでも授業を行うのは教員。地域の方はサポートティーチャーなので、地域の人に授業を任せきりにするのは、大きな負担をかけていると思う。

#### ⑦後継者育成の進め方について

- ⇒PTAの役員繋がりや充て職に頼っているのが現状である。
- ⇒より広く地域の諸団体や色々な立場の方に学校運営協議会等に参画してもらえようにする。
- ⇒コミスクの活動に参加していくことで、よさを実感された方が、自分から学校運営協議会員になりたいという人が出てくるのが理想である。
- ⇒今後、CSが進むにつれて、CSに関わったOBも増えてくる。CSに関わった人たちが何らかの形で関わり続けていくことができるようにしたい。(企画会に入ってもらうというよりは、部会員に入ってもらおう。)

#### ⑧願いや思いについて

- ⇒地域のため、地域と共に、地域活性化に向けてなどという願いや思いをどの地区も持っている。

#### ⑨やりがいを感じる時について

#### ⑩悩みや困っていることについて

- ⇒地域の認知度がまだまだ低い。
- ⇒校長先生が変わってもCSは変わらないが理想だが、実際には校長が変わると活動が変わってしまうこともある。

### 【グループ2】

#### ⑥地域住民の意見や思いの協議会への反映のさせ方について

#### ⑦後継者育成の進め方について

- ⇒住民の思いを聞くところがない。参加する地域住民がまだまだ少ない。
- ⇒意見を聞く窓口や集まる場所がない。みんなで集まっているような機会や場所がない。
- ⇒協議会に出ている人が代表として意見を言うことが地域の意見としてとらえればいいのではないかと。それよりも問題なのは、CSの活動について、地域の認知度が低いところではないか。
- ⇒PTAや保護者会の代表が、任期を終えた後、OBとして継続してもらえるようにすることが後継者育成につながるのではないかと。
- ⇒小学生や中学生の代表に、学校運営協議会にて意見を聞くなど、協議会に参加させることが、その子たちが大人になって、地域づくりに参画してもらえるのではないかと考える。
- ⇒各種団体の長がコミスクの運営の中心になっている。コミスクだけでなく、どの地域団体も後継者育成には頭を抱えている。
- ⇒コミスクもまだまだ始まったばかり。活動の評価を地域や住民にしてもらい、次への

改善点となる。きちんと評価してもらうことで活動が深まっていく。  
⇒今は初代でやってもらっている段階なので後継者について考えるのは時期として早い。まずは、組織や役割、あり方などをしっかりと確立させることが大切である。

#### ⑧願いや思いについて

⇒地域の人たちがCSの活動に対する願いや思いを知らない。学校に関心がない地域の人たちもいる。学校に関心を持ってもらえるために、情報の発信方法を考えた方がいい。学校からの発信だけでなく、地域からも発信できるといい。  
⇒地域のみんなで願いや思いを共有できるのが一番。地域のみんなが理解できるスローガンやキーワードを共有できるといいのではないか。  
⇒CSの活動に対するねらいや目標は明確になっているし、それに沿って活動はできている。より広めていくために、どうすればいいのかを考えていく。  
⇒願いやねらいを意識して、CSの活動をすることが大切。同じ活動でも、ねらいを意識しているかどうかで出口が変わってくる。

#### ⑨やりがいを感じる時について

⇒子どもたちとの関わりが楽しい。つながりができるのがうれしい。この気持ちをもう少し地域の方に広めていく。  
⇒地域の子どもたちの成長を実感できたのがよかったと感じている人が多い。地域の活性化に繋がっているのを感じている人もいる。  
⇒地域の方々に一緒にやっていただく時、ボランティアをお願いしてやってもらう時、活動の最初にねらいを、活動の最後に成果やよかったことを大切し、しっかりと伝えていく。  
⇒CSの活動に参加し続けることで、顔見知りになり、元気に挨拶をしてくれる。それがうれしい。  
⇒CSの本来の目的は達成できている。地域の活性化に繋がっているかどうかという視点でも地域学校協働活動を評価していく。子どもたちのため、学校のためという視点だけでは、弱い。地域側のメリットにもなっていることを意識づけていく。

#### ⑩悩みや困っていることについて

⇒地域団体に所属していない地域住民との連携がなかなかとりにくい。  
⇒広報で周知するという方法は、誰かが記事を書かなければならない。教頭の負担が増えることに繋がってしまわないか。  
⇒若い人、新しい人が入っていけるように、組織の仕組み作りを工夫しなければならない。  
⇒社会教育委員としてコーディネートしていかなければならないが、どうしてやっていくといいのかがまだまだ理解しきれていない。  
⇒会議の日時や回数についても、参加しやすいような配慮が必要である。  
⇒市議会議員のみなさんにも、CSの活動をもっと知ってもらい、地域の活性化につなげてほしい。

#### 【全体交流】

1グループから

2グループから

### ⑥地域住民の意見や思いの協議会への反映のさせ方について

・地域側は、区長会やまちづくり協議会からも意見を吸い上げる。学校側は子どもに、地域の人と関わることの大切さを指導してもらう。活動に参加した人に活動しながら話を聞いて、地域の人の意見として吸い上げてもらう。

・現在は、どういう活動を進めていくのかを検討している途中。地域の方にも活動を評価してもらい、その中で出た意見等を活かしていく。それぞれの団体で出てきた意見を反映させていく。現段階ではできていると思う。

### ⑦後継者育成の進め方について

・地域の色々な団体、色々な立場の方やPTAの役員又は役員OBにCSに関わってもらえるようにする。  
・時間的にも立場的にも活動に参加できる人を役員にしていくのが望ましい。  
・まだ、始まったばかりのCS。長い目で見た時、子どもが地域の人と関わることの楽しさを体験している場面を学校報にして紹介し、保護者等に伝えていくことで、CSが知られ、根付いていくということが期待される。

・それぞれの関係する団体の後継者育成がCSの後継者育成につながっていく。  
・PTAのOBに関わってもらえるようにする。

### ⑧願いや思いについて

・地域と関わっていくことは、学校にとっても子供にとってもよさがある。子供を中心にふるさとを活性化することは、子供だけでなく大人にもよさがある。

・どの学校も地域も願いや思いをもって活動を進めているのですばらしい。課題は、その願いをより多くの地域の方に広めていくにはどうしたらよいかということ。  
・願いと活動を結び付けていく必要がある。願いを意識しながら活動を進めていくことで、より有効な活動になっていく。

### ⑨やりがいを感じる時について

・子供の笑顔がたくさん見ることができ活動が多いと、一緒に活動する地域の大人にとってもやりがいに繋がる。「よかった」を共有する時間をたくさんもてるとよい。  
・地域の方に講師に来てもらう活動については、講師の方が負担だけを感じる方法にしないような配慮が必要である。

・それぞれの地区で有効な活動ができているのがわかる。  
・子供と関わったことで、地域側にもどんなメリットがあったのかを明確にしていくとよい。  
・活動の最初と最後を大切にする。活動の最初にねらいを明確にし、最後に成果を明確にすることが大切。

### ⑩悩みや困っていることについて

・CSに対する認知度が低い。関心も低い。ただ、始まったばかりのCS。学

・もっと地域にCSについて広めていく広報活動が必要である。

校報で活動を紹介してもらっている  
ので、これから参加する方が増えて  
くると期待している。

- ・校長が変わると活動が変わる部分も  
あるが、地域が担う役割が増えてく  
ることで、大きく変わることは少な  
くなると思う。

・ただ単に活動内容を広めるのではな  
く、その活動するねらいや願いも強調  
して広めていくことが重要である。

## (2) 提言書(案)の検討

- ・提言書の項目や誤字脱字、表現の仕方について意見を交流した。

### 3 提言書について

### 4 今後の見通しについて

### 5 事務局より

#### (1) 配付物等紹介

#### (2) 各種研修会

- ①地域学校協働活動推進員等フォローアップ研修(1/25) 岐阜大学  
渡邊委員、安藤委員

### 6 閉会の言葉